

各 位

上場会社名	初穂商事株式会社
代表者	代表取締役社長 斎藤 悟
(コード番号)	7425)
問合せ先責任者	管理本部長兼経理部長 高野 温志
(TEL)	052-222-1066)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年2月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年12月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,670	2	29	4	0.54
今回修正予想(B)	6,886	92	118	△53	△6.57
増減額(B-A)	216	90	89	△57	
増減率(%)	3.2	—	406.8	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	6,175	△85	△59	△144	△17.52

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,990	96	150	65	7.89
今回修正予想(B)	14,200	202	254	41	5.00
増減額(B-A)	210	106	104	△24	
増減率(%)	1.5	210.4	169.3	63.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	13,302	△31	17	△113	△13.73

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

修正の理由

・平成23年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正理由

建設業界を取り巻く状況は、住宅ローン減税や住宅エコポイントなどの政策効果を背景に、マンションを始めとする住宅関連の需要は、増加してまいりました。公共事業、オフィスビル市場につきましては、依然として厳しい状況が続いているものの、病院、老人ホーム、ショッピングセンターのテナント工事やJR博多駅新築工事、九州新幹線開通に伴う商業施設などの需要が相次ぎました。また、東日本大震災による緊急復旧工事の需要などもあり、主力商品の軽量鋼製下地材・不燃材の売上高は、46億円(8.2%増)と計画を上回る見込みであります。

この結果、売上高は、68億86百万円(前回発表予想比2億16百万円増)となる見込みであります。利益面につきましては、売上高の増加や粗利益率の改善に加え、経費の削減などにより、営業利益92百万円(前回発表予想比90百万円増)、経常利益1億18百万円(前回発表予想比89百万円増)となる見込みであります。

また、退任取締役2名に対する役員退職慰労金1億96百万円の計上及び資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額22百万円の計上などにより四半期純損失53百万円(前回発表予想は四半期純利益4百万円)となる見込みであります。

・平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正理由

第2四半期累計期間における業績数値の修正に伴い、市場動向を鑑み、通期業績予想を修正いたします。今後の建設需要につきましては、東日本大震災の影響による資本ストックの復元需要が見込まれるものの、夏場の電力不足、海外経済の下振れ、個人消費低迷の長期化といった懸念もあり、景気が下押しされるリスクが残っております。このように先行きに対する不透明感から、企業は新たな投資に慎重な姿勢を強めており、設備投資の早期回復は期待できず、建設分野を中心とした国内需要は依然低迷することが予想されます。

こうした状況から、通期業績につきましては第2四半期業績数値の修正に伴い、売上高は142億円(前回発表予想比2億10百万円増)に修正いたします。利益面につきましては、営業利益2億2百万円(前回発表予想比1億6百万円増)、経常利益2億54百万円(前回発表予想比1億4百万円増)、当期純利益41百万円(前回発表予想比24百万円減)に修正いたします。なお、東日本大震災の業績への影響につきましては、現在、精査中でありますので、当該予想に変動が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上